
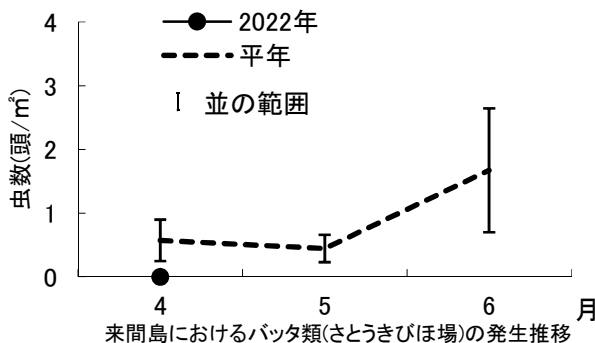
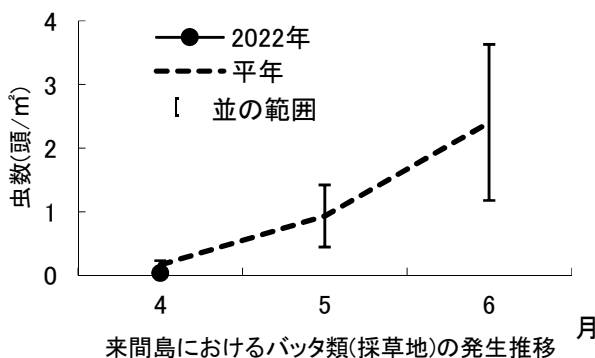


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


今期と平年の推移



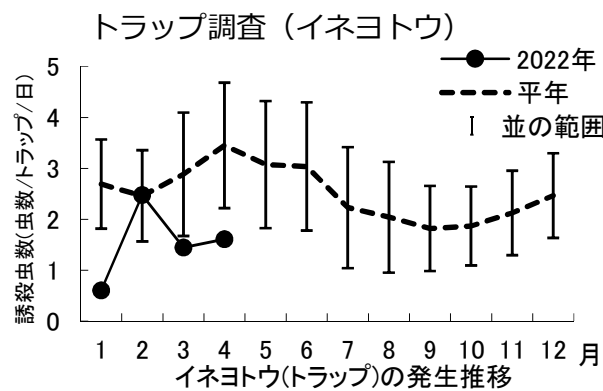
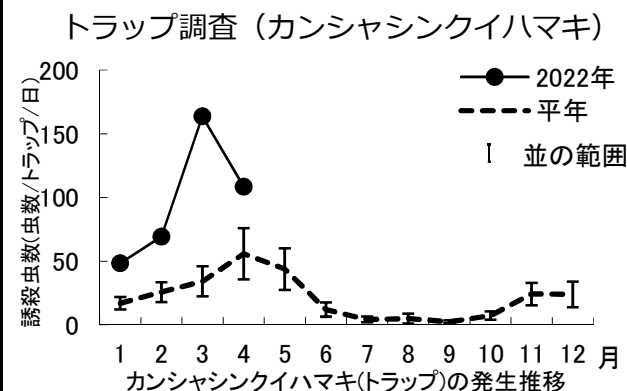
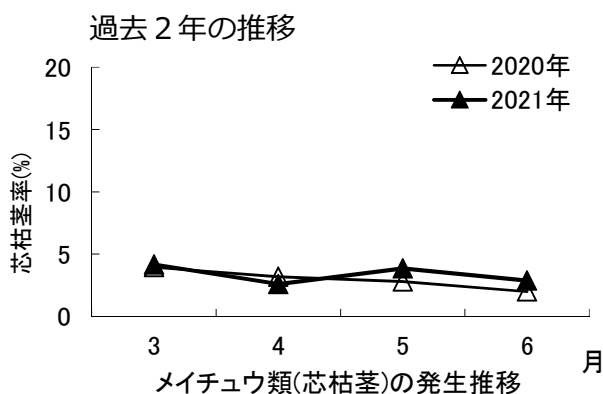
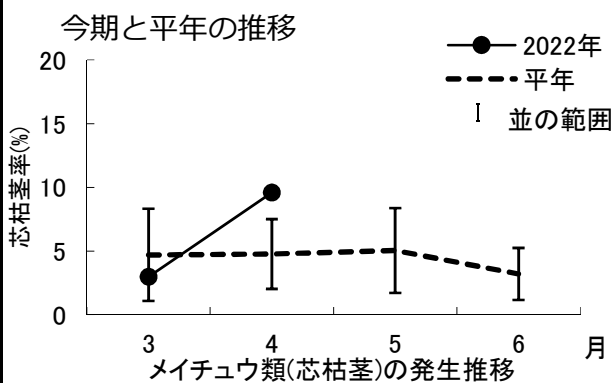
・発生種：台湾ツチイナゴ

防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、5～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



- ・発生ほ場率：100%（平年値：90.2%）
- ・茎内で発見したメイチュウ類のうち、95.5%（21/22頭）がカンシャシクイハマキ、4.5%（1/22頭）がイネヨトウであった。

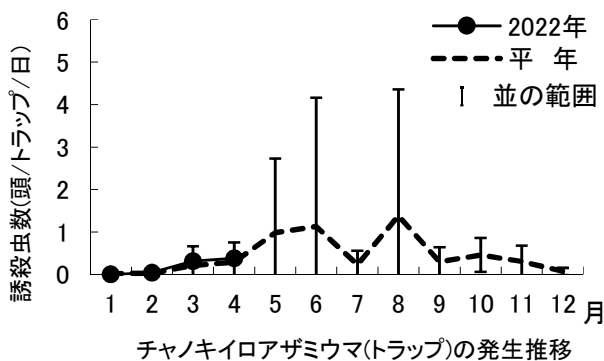
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

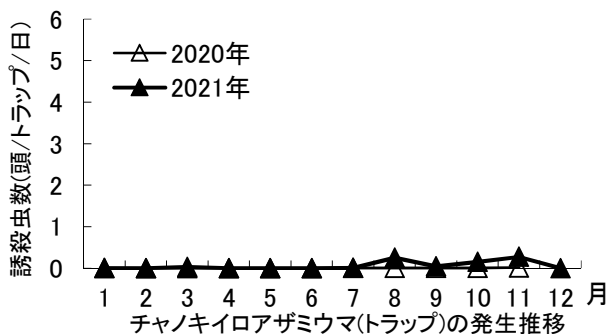
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・トラップ調査による発生施設率：80.0%（平年値：40.0%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

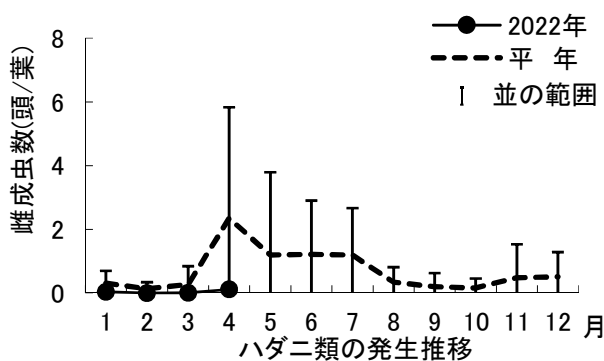


ナガエコミカンソウ

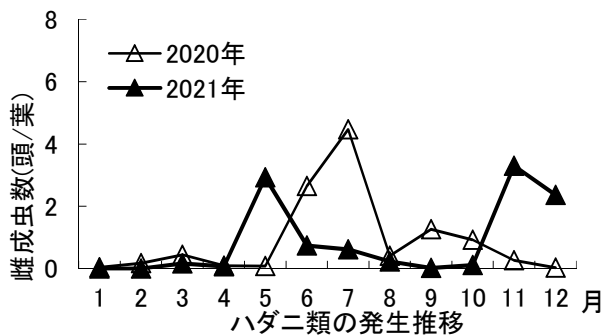
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生施設率：60.0% (平年値：48.0%)

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

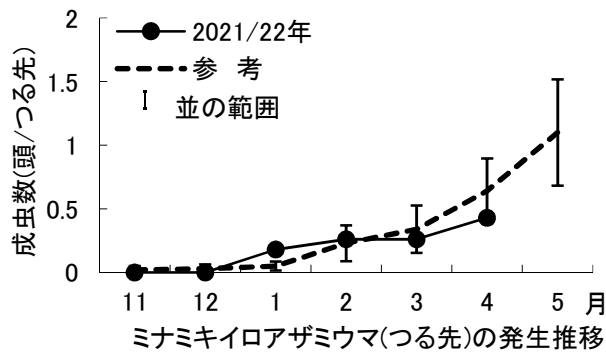


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

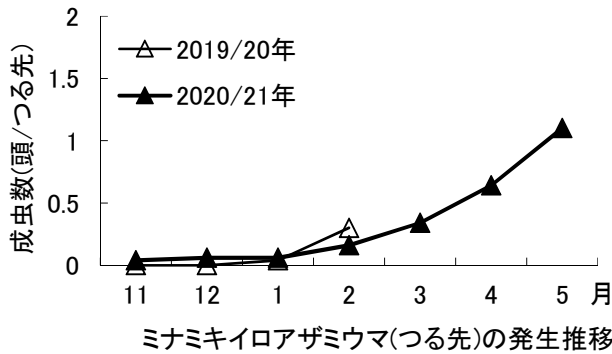
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報	4 月からの増減傾向	—	
		5 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

発生数の推移




過去2年間の推移



- ・発生施設率：100% (過去2年間の平均：80.0%)
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

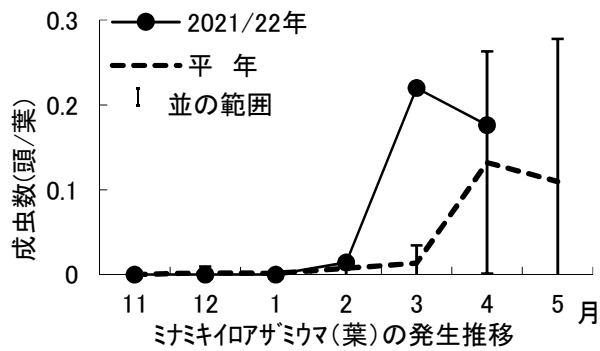
防除のポイント

- ・施設周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

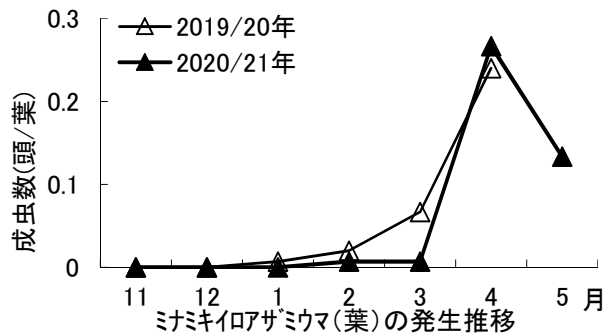
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↘	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




- ・発生施設率：40.0% (平年値：40.8%)
- ・一部施設で多発生

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

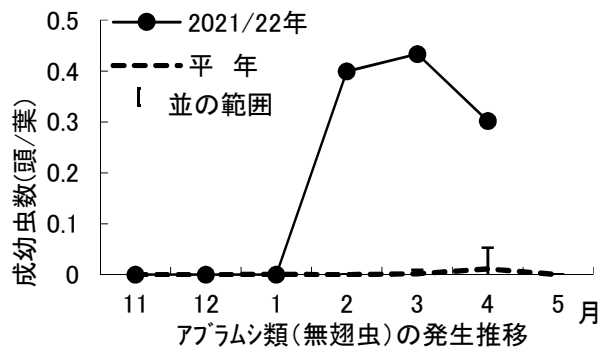


果実の被害

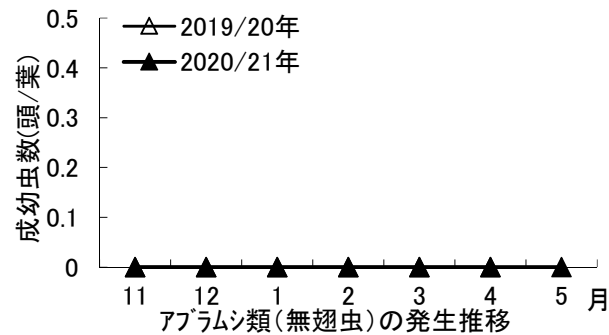
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・発生施設率：40.0% (平年値：2.0%)

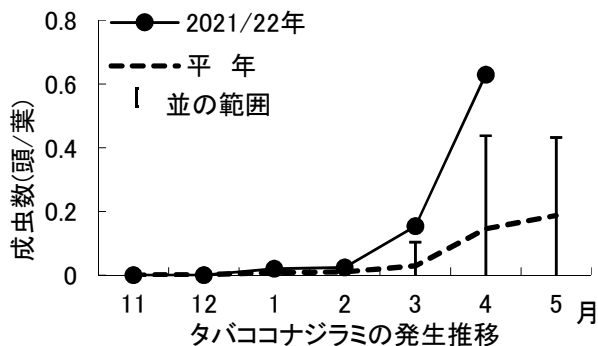
防除のポイント

- ・本種はウイルス病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

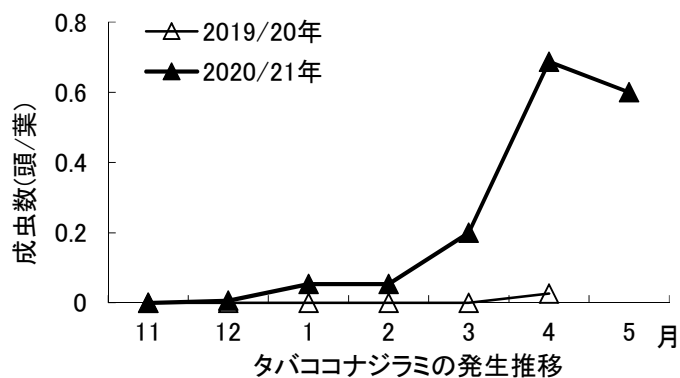
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生施設率：60.0% (平年値：38.0%)

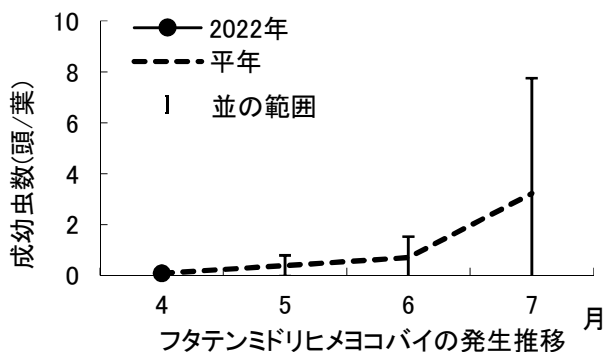
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

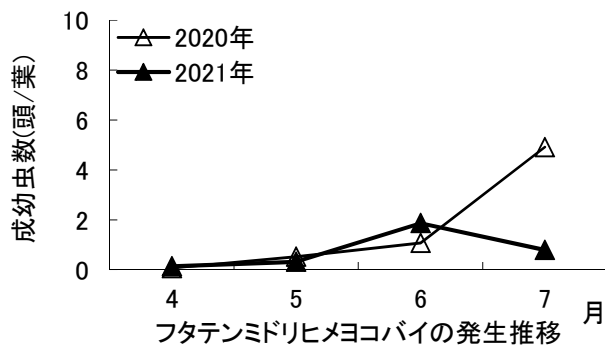
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 60.0% (平年値 : 50.0%)

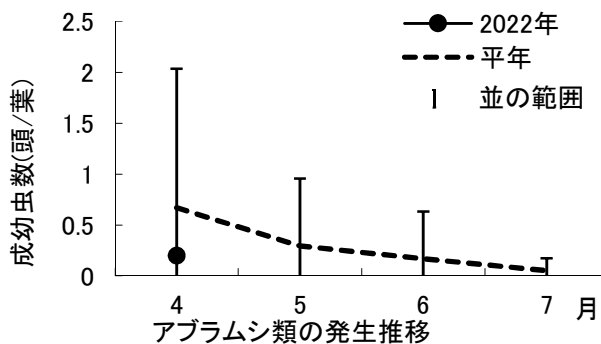
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

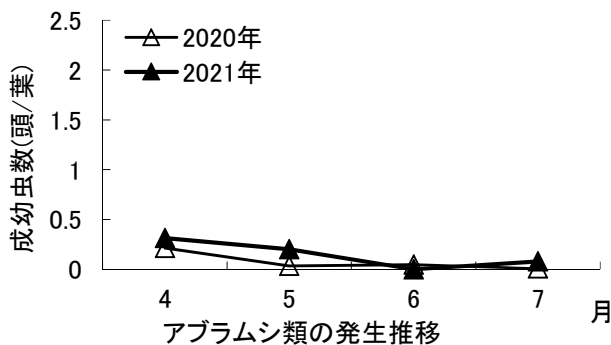
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↘	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 60.0% (平年値 : 42.9%)

防除のポイント

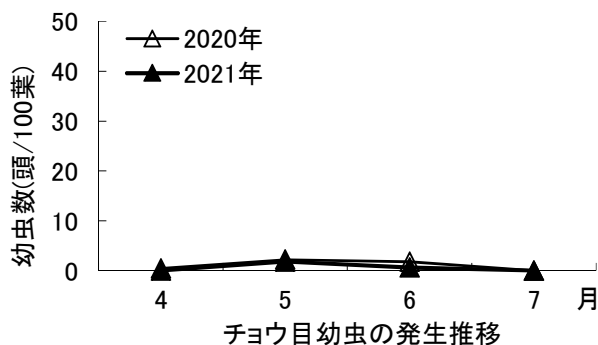
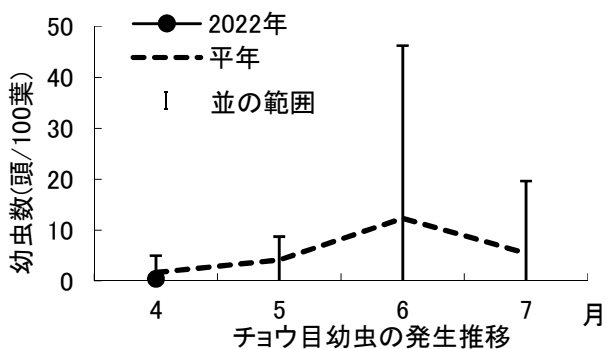
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し発見次第早期防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移

過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 20.0% (平年値 : 26.2%)

発生種 : ワタノメイガ

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

